

令和6年度 学校評価報告書

学校番号(中02) 長崎市立日見中学校

1 教育目標

自主・創造 ～平和で豊かな社会を創る力と志を身につける～

2 学校経営方針

スローガン 「挨拶・返事・笑顔」日本一の学校 めざす生徒像 ・自ら学び、正しい判断ができる生徒（知）・思いやりがあり礼儀正しい生徒（徳） ・健康と安全に心がけ、心身ともにたくましい生徒（体） めざす職員像 ・生徒・保護者との信頼関係を構築し、心のふれあいを大事にする職員 ・使命感に徹し責任を持ち自ら範を示す職員 ・生徒と共に考え、共に歩む職員

3 重点目標

① 表現力の育成と基礎学力の定着 ② 基本的な生活習慣の確立 ③ 自律と平和希求の精神、健やかな体の育成 ④ 学校・家庭・地域との連携
--

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	学校経営方針	学校は、平和で豊かな社会を創る力と志を身につけるよう推進している	100	100	100	「明るく楽しい雰囲気である」「あてはまる」と回答している生徒の割合が1学期66%から2学期73%と高まっていることに対し、保護者の割合が1学期66%から2学期50%と下がっている。本校では、保護者の参観が学校行事では多いが、育友会の参加率の低下が課題となっている。今後は、講演会や発表会と育友会を組み合わせるなどして学校の様子を感じ取ってもらう必要がある。 組織運営と業務改善については、年度当初分掌のスリム化を実施した。協働しながら戦略的に職務を遂行できるよう、職員の声に耳を傾け、その都度組織をアップデートすることが必要である。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	99	97	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			88	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			88	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	99	94	94	今年度は、平和、人権への取組の充実とともに、自己肯定感や自己有用感を高める取組として、教育活動全般で生徒の出番を増やし、その動きを承認する活動を組織的に行った。また、学校生活アンケートやアセス、非認知能力テストなどを活用して生徒を多角的に分析し、教育相談をこまめに行うなどして生徒に寄り添った。今後も生徒に寄り添い、課題の予防に努めるとともに、早期発見に向けて組織的に取り組んでいきたい。不登校生徒については、心の相談室の活用を意図的に仕組みながら進めていきたい。 本校は、「あいさつ日本一の学校」を目指している。生徒会ではあいさつレベルを設定し、生活部を中心に取り組んだ。また、教職員も折に触れて話題にした。肯定的な回答は高いものの、自分から進んで誰にでもあいさつする習慣を高めていくことが必要である。
		挨拶をよくしている	95	88	94	
		学級や学校のために役にたつよう努めている	91	100	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	97	94	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	89	92	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	97	97	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	97	91	100	
特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	97	94	100		
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	96	100	100	家庭学習の習慣を除き、いずれも高まっている。その要因としては、地域をフィールドにふるさとへの思いに触れる「ふるさと学」に地域と職員、生徒が一体となって取り組んだことである。生徒が地域のことを自分事として捉え、仲間と協働しながら進めたことで、学びに向かう力が高まったことにあると考える。また、教職員は、探究的な学びは教科等横断的な学習であり、その学びに求められる各教科で身に付けなければならない力に改めて気付くことができた。本年度は、学習評価の研修を実施するなど学習指導への充実にも力を注いだ。「ふるさと学」の充実、教科の充実につながり、結果的に生徒の学力向上へとつながることを全職員で共有し、生徒が学習課題を自分事として捉え、解決するために家庭でも学びたいと思わせる工夫が必要となる。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	97	97	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	62	59	59	
	ふるさと学を推進し、地域から多くのことを学ぶ力を高めている	97	100	100		
キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	96	91	100		
	長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	93				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	98	94	100	項目「体力向上に努めている」の生徒回答を除き、いずれも高まっている。また、校内の救急体制については、養護教諭と連携しながらマニュアルを作成、運用するなど、教師の意識向上とともに、保護者・生徒の安全・安心への意識を高めた。また、保健だよりや掲示物、食に関する講話を各学年において実施するなどして、基本的な生活習慣の向上への意識を高めているところである。 1月には、日見地区ロードレース大会に学校行事で参加し、体力向上に努めたい。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	79	85	100	
		体力向上に努めている	80	87	100	
	食育	食に関する教育活動を行っている	92	97	100	
	救急体制	校内の救急体制をつくり、対応している	97	100	94	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	98	91	100	すべての項目で高まっている。これは、県指定研究校として「ふるさと教育」の具現化を組織的に進める中で、教職員一人一人の研修における充実の高まりに加え、資質向上の自覚が芽生えてきたことにある。今後も地域とPTAと学校が実情に応じて細やかに連携・対応し、互いの信頼関係を構築に努めていきたい。本校の教育活動の様子を知らせるために、HP、学校だより、学級通信等もこまめに、時期に合わせて更新、発行している。特にHPについては、担当者を中心に、教職員が協働しながら毎日更新している。今後も、連携・協働・発信を大切にして信頼される学校づくりに努めたい。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	97	100	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	97	100	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	94	91	100	安全点検、安全衛生推進会議で、報告があった内容に対しては迅速に対応した。職場環境の改善については、職員の声を聴き、改善や改革を必要に応じて行っている。 今後もワークライフバランスを合言葉に、職員相互のフォロー体制の構築を進めていきたい。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			94	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

【成果】

○ほとんどの項目で肯定的な回答が90%を大きく上回っている。これは、学校教育目標が浸透し、生徒・教職員が一体となって取り組んできたことの表れであると考えている。特に、ふるさと教育を通して、地域とPTAと学校が実情に応じて連携が図られてきたことで、学校への信頼が高まっていることを実感している。また、様々な学校行事の中で、「出番」「役割」を生徒に与え、その姿を「承認」する活動を仕組んだ。それらの活動を通して、教職員の「生徒の学びや思いに寄り添った指導」への意識の高まりが芽生えるとともに、主体的・協働的に職務を遂行しようとする姿勢が高まってきたことが大きい。

【課題及びその対策】

○生徒の生活習慣や家庭学習への取組を意図的に変えていくことが必要である。あいさつや生活習慣、家庭学習に関しては、教師が現状を示すデータなどを根拠に問題提起し、生徒会を中心に継続的かつ主体的な取組を実践させることで、生徒一人一人の自己調整力を向上させる。その中で、現在実施している「アウトメディア・ウィーク」の取組等、日見小学校と連携して構想するなど、小中一体となって共通実践し、家庭や地域への啓発や共通理解を図りたい。

○職場環境、組織運営、業務の改善については、今年度改編、精選したところである。今年実践して表出した問題や教職員の思いやアイデアを吸い上げ、企画委員会や安全衛生委員会等で議論しながら改良を進めたい。

6 学校関係者評価

学校評議員会 (1月27日)

○ふるさと学や地域行事等への貢献を通して、生徒が鍛えられていると感じた。地域行事の会場設営や係、会場撤去の様子を見ると、昨年度と比べて生徒一人一人が効率よく、コミュニケーションを図りながら進んで取り組んでおり、成長している。

○各家庭の価値観、優先順位が変わってきていると感じる。育友会の在り方を模索しつつも、学校と家庭、地域と家庭が連携して子ども

もの健全育成を図ることを大切にしてほしい。

○家庭学習の習慣、あいさつ、早寝、早起き、朝ご飯への取組は、保護者の支えが必要。朝から地域であいさつする生徒としない生徒ははっきりしており、子どもの様子を見れば、家庭の様子が垣間見える。下校時は大きな声であいさつしている。

○日見を大切にしている生徒を今後も継続して育ててほしい。また、将来日見のために貢献していく人材を是非育ててほしい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○家庭学習習慣、生活習慣に係る講話を育友会とタイアップして企画する。

○生徒の学びを家庭及び地域に開き、生徒が成長していく姿を共有する機会を意図的に仕組む。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答とらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。